

平成21年度 産業建設常任委員会行政視察報告書

平成21年11月24日

- 1 日 程 平成21年10月27日(火)～29日(木)
- 2 視察先等 岩手県花巻市 人口 10.5万人 面積908km²
福島県郡山市 人口 33.9万人 面積757km²
- 3 視察事項 花巻市「トータルアドバイザー事業について」
郡山市「インキュベーションセンター事業について」
- 4 視察者 一行9名
委員 高井 保委員長 小野 吉太郎副委員長
大平 一貴委員 保坂 裕一委員
山田 義栄委員 安武 秀敏委員
樋口 浩二委員
当局 小柳 俊樹 農林課長補佐
随行 石井 信一 議会事務局次長

〔花巻市の概要〕

その位置は岩手県のほぼ中央に位置し、西側は奥羽山脈、東側は北上高地が連なり、その間を北上川が流れる北上平野の中に位置しております。

また、県内唯一の花巻空港があり、東北新幹線新花巻駅や東北自動車道、東北横断自動車道等、高速交通網の整備された中にあり、拠点性に恵まれた環境の中にあります。

また、花巻周辺の大迫、石鳥谷、東和の各地域との合併で平成18年1月1日をもって市制が施行され、新たな新市の発展を目指し、丈夫な体で進んで働き、深い知性を育み、人と故郷を愛し、世界に目を開きます。そう言う市民憲章の下で、明日に生きる為の力を蓄える準備をするまちであります。

〔トータルアドバイザー事業〕

水田経営所得安定対策として、認定農業者や水田農業ビジョンの担い手を円滑に誘導支援し、効率的、安定的な農業経営体の育成を図る事を目的として、設立されました。

〔事業概要〕

事業主体は花巻地方農業振興協議会で平成18年度が初年度です。

トータルアドバイザーを農業の支店(7ヶ所)に配置し、集落営農リーダー等と連絡の下で、新規加入者の掘り起こしや、施策に意欲を持って参加させるべく、

個別農業者を認定農業者へと誘導し、集落営農の組織化や法人化へと促進し、加入後の経理事務、記帳から税務相談まで支援活動を実施するものであります。

事業費は初年度は、市とJAがそれぞれ5,700千円を負担しての事業でしたが、19年度にアクションサポート事業として国庫補助が認められ、21年度としては、20年度の繰り越しが13,187千円となりました。

国庫補助の35,136千円も認められ、市やJAの負担措置の必要が無いとの事でした。

〔所感〕

企業感覚としては普通の事ですが、農業経営も儲かる経営から、自ら汗を流し、頭を使い、儲けていく経営者を目指す為、国の制度を取り入れ、行政、JAの連携が、交通網の発展と共に、地の利を生かした自立を目指す為の情熱と活力を垣間見る思いでした。

これからの人社会、食と云う字が命の上に立つ時代である、と云う人がおります。人の食を賄う農業経営の発展が人の身体を満たすものであるならば、此の様な事業の支援と指導が続くことの必要性を強く感じてまいりました。

〔郡山市の概要〕

福島県の安積（あさか）平野の中央に位置しており、猪苗代湖の一部を有し、阿武隈川が市街地の東部を流れ、北国とは云え比較的気候にも恵まれておることとであります。

更なる発展を目指し、自主、自立の地方分権型、協働型社会の確立の為の、郡山第五次総合計画を策定し、市民が主役の協働のまちづくりを基本とし、人と環境のハーモニー、魅力あるまちを目指す、人の知と行動を進行形とする積極的な市であります。

〔インキュベーションセンター事業〕

財団法人郡山地域テクノポリス推進機構が製造業を中心として、新たに起業を考えている人や、新事業に取り組む企業等を対象に、大学（日本大学）等が連携して、新商品の研究開発の場、試作する為の場を廉価な価格で提供する為に、国、福島県、郡山市、日本大学の助成を受け、平成18年8月に、圏域6市町村（郡山市、須賀川市、鏡石町、石川町、玉川村、三春町）と圏域内企業により、基本金役15億円により設立され「郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター」を日本大学工学部敷地内に建設し、管理運営を行っておるものであります。

事業費として、

国	137,000千円	福島県	50,000千円
郡山市	100,000千円	日本大学	30,000千円

の助成で、総事業費は 317,000千円であります。

インキュベーションセンターには新製品の研究開発に必要な拠点としての場が11室ありますが、現在は10室が利用されておるとの事であります。

此の中には、医療機器関係が3室、精密機器関係が3室、その他で4室が入室しております。此の中には金属加工から食の分野への180度の転換も見られ、24時間、365日の利用も可能であるとの事です。

郡山市はもともと医療、福祉機器の製造出荷額は日本のトップを占め、それらの機器の技術開発は目覚しく、細かな事は特許等の関係もあり企業秘密で入室を厳禁しており入室は許されませんでした。

その他に、環境、電子、情報通信等、これから社会にもっとも求められるそれも夢としか思われなようなものを形にする。夢みる若者と産業界と研究機関、それに行政機関が地域産業発展の大きな支えとなっております。

〔所 感〕

そんな活力ってどこから産まれるのだろう。当事者の話や説明の中に見いだそうと、聞いておりました。それは最後の説明員の言葉でした。

皆さんはね、土曜、日曜、祭日はもとよりですが、毎日仕事が終わって夕食をたべてから集まって研究や作業を始めるのですよと、言われておりました。

日夜の、そして休日返上のたゆまぬ努力。それが実を結ばぬ訳が無い。納得してなお最高の敬意を胸に感じました。

日本の将来を見据えた時、資源の無い日本の在り方として、知と技術を駆使した世界への道しか無いとまで云われております。

今こそ行政機関は産業界、研究機関、大学へ、明日の日本を託する為にも、支援をもっと強く大きくあるべきと感じ入った次第であります。